

(様式4)

令和6年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度、生徒の心身両面のさらなる成長と魅力ある学校づくりを目指し、5つの重点項目と10の達成目標を設定し、実践した。

重点項目1（学習活動）の「授業内容の理解度」「学習内容を理解するための粘り強い取り組みの状況」について「5段階評価で4以上とした生徒の割合70%以上」の目標は概ね達成した。その一方で予・復習には十分時間をかけていない実態があり、進路目標の明確化により、学習意欲を喚起していきたい。

重点項目2（学校生活）の「生徒一人あたりの年間平均遅刻数1.0回未満」という目標は達成できたが、特定の生徒が回数を重ねている実態がある。その原因を探り、対応策を講じていきたい。また「心身の健康を害する前に予防的の手立てがとれるようになる」という目標は、講座や保健だよりにより、心の健康に関する情報発信をすることで、概ね達成したと言える。問題や悩みを相談しやすい環境整備も必要である。

重点項目3（進路支援）の「自己の進路選択に活用するため、進路学習に積極的に取り組むことができたとする生徒の割合90%以上」、「進学補習・面接練習・個別指導などの進路支援に対して肯定的にとらえていた生徒の割合90%以上」という目標は昨年度に引き続きともに達成しており、新たな課題を明確にし、取り組んでいきたい。

重点項目4（特別活動）の「ボランティアに一度でも参加した生徒の割合70%以上」、「一日あたりの平均図書室利用者数12人以上」はいずれも目標に届かなかった。生徒会や委員会活動などを通して、参加や利用の有益性を周知して、参加者・利用者の増加を図りたい。

重点項目5（専門科目(家庭)）の「家庭科技術検定における合格率・取得率」、「卒業時における生活文化科に対する満足度90%以上」については、目標をほぼ達成することができたが、目標達成に至らなかった部分にも目を向けて、さらなる充実を図っていきたい。

今年度の10の達成目標の評価は、Aが3、Bが6、Cが1、Dが0であった。B以上がほとんどで、ほぼ目標を達成となっており、今までとは異なる視点を持って課題を探り、改善に取り組む必要がある。

7 次年度へ向けての課題と方策

次年度に向けての方策として、次の点が挙げられる。

- ・ICTを活用した教育活動の機会は確実に増えている。さらに活用の機会を広げるために、活用スキルや実践例などの情報を全教員で共有する。
- ・立山町との包括連携協定をはじめとする、地域と連携した活動は充実してきている。さらに主体的に活動する生徒を育成していきたい。
- ・以前からのボランティア活動の伝統を、生徒会中心に取り組むだけでなく、地域課題への探究活動からの流れを構築し、充実させていきたい。
- ・生活文化科の従来の活動を継続することで生徒に充実感を持たせる一方で、教員の過度の負担を軽減できるよう、検定取得に向けての取り組みのあり方を検討する。

グランドデザインを柱として教職員の意識の統一を図り、高い目的意識を持って入学したいと思える学校を目指して、魅力ある学校作りを進めていきたい。